

図書館だより



図書館ホームページアドレス <https://lib.city.irusa.saitama.jp/>

No.61

令和7年7月号

【4・7・10・1月発行】

発行：入間市立図書館

本館 04-2964-2415

西武 04-2932-2411

金子 04-2936-1811

藤沢 04-2966-8080

図書館本館に

りんごのたな

できました！（2025年4月～）



— りんごのたなとは？ —

誰でも読書を楽しむことができるよう、点字図書やさわる絵本などのバリアフリー図書が置かれている本棚です。1993年にスウェーデンの図書館で「りんごの図書館」として始まりました。

入間市立図書館本館のりんごのたなには、バリアフリー図書のことが分かる本や、本の読みたい部分を強調し読書の手助けをする道具「リーディングトラッカー」もあります。

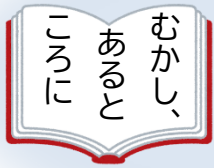
りんごの棚の本には本の背表紙に
りんごのラベルがついています。



リーディングトラッカー

りんごの棚にある本は、すべての人に読書を楽しんでもらえるよう工夫されています。
読書が好きな人も読むことが苦手な人もぜひ手に取ってみてください。

「大活字本」



一般的な本よりも大きな文字で書かれています。
りんごの棚のほか、一般コーナーにもあります。

「さわる絵本」



指でさわって読む絵本です。文章は文字だけではなく、点字でも書かれています。絵の部分はデコボコしているので、見なくてもさわることで絵の形がわかります。児童コーナーの絵本の本棚にもあります。

「LLブック」



やさしい言葉やイラストが使われており、わかりやすい表現がされた本です。一般コーナーにもあります。



読み聞かせボランティアグループの広場



図書館で活動している、読み聞かせボランティアグループのどんぐり（本館）・かざぐるま（西武分館）・おはなし^{まどか}円（西武分館）・茶の花（金子分館）・トトロ（藤沢分館）です。
各グループより、最新情報をお届けします。

どんぐり

「冬のおたのしみ会」に向けて活動を開始しました。出し物の1つとして、パープサートで「どうぞのいす」をします。ぜひ一度絵本を読んでみてください。そして、どんぐりの皆で演じる「どうぞのいす」を楽しみにしてください。会場で待っています。

かざぐるま

皆さんはこわいおはなしの本を読んだことがありますか？恒例のちょっとこわ〜いおはなし会では今年もみなさんにゾクッ！えっ！こわ！と思ってもらえる、ちょっとこわいおはなしを用意しています。もちろん楽しいおはなしやゲームもあるので、ぜひ遊びに来てください。7月26日（土）10時30分から始まります。

おはなし^{まどか}円

4月の「大人のためのおはなし会」にはたくさんの方に聞きに来ていただき、ありがとうございました。西武分館での毎月第1土曜日10時30分からのおはなし会では、ピクチャーボックスを使った「フォークくんとスプーンさん」「だめといわれてひっこむな」などのおはなし、紙芝居、手遊び等を楽しみました。また来てくださーい。

茶の花

7月26日（土）は夏のおたのしみ会です。今、新しい仲間といっしょに布しばいや大型絵本、紙しばいなどの練習に励んでいます。題名は当日のお楽しみに。夏にぴったりのものを読みます。どうぞ楽しみに来てくださーいね。

トトロ

藤沢分館では7月19日（土）11時から夏のおたのしみ会を行います。皆さんに楽しんでいただけるように準備しています。遊びに来てね。8月17日（土）には恒例の「こわいおはなし会」もありますよ。こわいおはなしが好きなあなた！どうぞお越しくださいね。



大人のためのBookガイド



～図書館職員のおすすめ本を紹介します～



『水辺と日本人』

中岡 義介／著 明石書店 <210.04/ナ>

周囲を海に囲まれ、無数の河川が流れる日本には、水と共に歩んできた歴史があります。本書では、水辺と日本人にまつわる文化的・地理的な考察から、豪雨・洪水・津波といった頻発する自然災害との向き合い方まで、多角的な視点から「水辺の思想」について語られています。史料的なアプローチだけではなく、現地調査の成果も加えた、国土全般に関する壮大な発展史です。

『ウマに恋する競馬ガイド』

三浦風沙／著 小学館クリエイティブ <788.5/ミ>

皆さんは競馬についてどんな印象をお持ちでしょうか。今や競馬場はレースだけを楽しむ場所ではなく、行って楽しむ場所になっているのです。本書は、競馬場でのレースの楽しみ方や過ごし方、競馬に携わる人のインタビューで構成されており、これから競馬を楽しもうという方に向けた入門書です。また、裏方の仕事に携わる方のインタビューも多く、長年の競馬ファンにとっても違った視点で競馬を見ることができる1冊になっています。



『一冊で読む漢詩400』

鷺野 正明／編著 笠間書院 <921/イ>

漢詩とは、中国の伝統的な詩のことです。「五言絶句」や「七言絶句」など、決まった型で詠むという特徴があります。といっても、難しい知識は必要なく、壮大な自然を詠った詩や、飼い猫への惜しめない愛情の詩など、今読んでも感動したり、共感したりするポイントがあり、楽しめるます。本書には400篇の作品が収録されています。巻末には詩人の略歴や題名別索引も付いており、より深く漢詩を学びたい人にもおすすめです。

『成層圏の墓標』

上田 早夕里／著 光文社 <913.6/ウエダ>

夕方から明け方にかけて、毎日のように降り続く雨。もう何年も降雨異常が続く中、「私」こと吉坂はコンビニエンスストアの夜勤スタッフとして働いていました。ある日、勤務中に来店した奇妙な客——人型でありながらヒトではない様子のそれは、降雨異常が始まってから世界中で観測されるようになった「^{あめぼう}雨坊」と呼ばれる存在でした。^{あめぼう}雨坊と遭遇し、不思議な体験をする「私」。彼らは一体どこから、何のために現れるのか。

表題にある『成層圏の墓標』のほか9作品を収録した短編集です。



新着資料もたくさんあります。各館の新着コーナーをご覧ください！
新刊だけでなく、寄贈でいただいた資料なども並びます。



こども向けBookガイド

『ほんやくすると』《ふ12》

齋藤 倫・うきまる／文 くの まり／絵 ブロンズ新社

語り手の犬が、生まれたばかりの男の子に色々なことを「ほんやく」しながら教えてくれます。

ぼくがしっぽをふるのは、「とっても うれしい!」ってこと。

きみが大きな声でなくのは、「おかあさん」ってこと。

言葉はなくても、心と心で通じあえるってこと。

同じ時を過ごすふたりは、男の子の成長とともに広がっていく世界を分かち合います。

くのまりさんの絵で、自然の豊かさやみずみずしさが、ダイナミックに描かれています。



『きみとかがえる森 4 森と生きる未来へ』《650》

齋藤 暖生／編・監修 中島 陽子／絵 岩崎書店

世界の森は今どんな問題に直面しているのでしょうか？

この本は人工林の増加や熱帯雨林の減少、地球温暖化がおよぼす影響などを通して、森と私たちの暮らしのつながりををわかりやすく教えてくれます。写真やイラストが多く、読みやすい工夫がいっぱいです。森と私たちの未来のために、今できることは何か。この本を読むことで、自分にできる一歩がきっと見つかります。身近なところから地球や森の未来を想像してみませんか？



『ツリーホーンのたからもの』《933／ハイド》

フローレンス・パリー・ハイド／著 エドワード・ゴーリー／絵 三辺 律子／訳

東京創元社

ツリーホーンはマンガが大好きな男の子。マンガを14冊持っていて19回ずつ読んでいた。おこづかいをもらったら新しいマンガをかうつもり。おとうさんは金になる木なんてないのだから貯金しなさいというけど、庭に出てみたら木のはっぱが1ドル札になっていた！

どこかとぼけた男の子、ツリーホーンはそのお札でマンガをかうことはできるのか？エドワード・ゴーリーのイラストと一緒に楽しみください。



ティーンズ向け

『子どものおしゃれにどう向き合う？装いの心理学』

鈴木公啓／著 筑摩書房 《371》

たびたび世間の注目を集めている低年齢層の子どもたちの「おしゃれ」。過度なダイエットをはじめとする「おしゃれ」のネガティブな面だけを取り上げている人々は、果たして「子ども」と「おしゃれ」の実態を本当に理解しているのでしょうか。

おしゃれという数値化しにくい文化を、アンケートを使った統計分析や心理学の観点から考察しています。自分のおしゃれに向き合うときに読んでほしい1冊です。

